

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探求コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	カナダ	
学校名	日本大学三島高等学校	氏名	森島心	学年	2年

私が留学に行こうと決めたきっかけは日本での児童擁護施設のボランティアを通じ、他国の現状についてももっと知りたいと考えたことでした。これまでの短期留学は決められたプログラムに沿って語学を学ぶだけで自主的に学ぶ機会が少なかったのですが、トビタテ留学 Japan(ふじのくにグローバル人材育成事業)では自ら立てた問いを探究することが出来るという部分にとっても魅力を感じました。結果的に私の留学体験は、語学力の向上にとどまらず、自分の価値観や物事の見方を大きく広げてくれるものでした。実際に海外で生活し、現地の人々と関わる中で、日本にいただけでは気づくことのできなかつた多くの学びを得ることができたと思います。



カナダに留学した際、私は児童福祉施設を訪れ、現地で働く職員の方々に話を聞く機会を得ました。施設では、子ども一人ひとりの考えや気持ちが尊重されており、日常生活の中での小さな選択から将来の進路について職員と児童とがお互いに話し合える環境が用意されていました。(施設内のデザインがカラフルでとても可愛いらしかったです)

日本では、子どもの安全や生活の安定を守ることが最優先されるため、大人が判断を下す場面が多くなりがちです。日本でのこの体制は否定するべきものではないと思いますが、子どもの自主性を育てる機会がカナダでは積極的に取り入れられていると感じました。留学先での体験を通して、子どもを個人として捉え、意見を尊重する姿勢の重要性について改めて考えるようになりました。このような気づきは、実際に海外で現場を見なければ得られなかったものだと思います。

また、ホームステイ先での生活も、留学の価値を強く感じた経験の一つです。ホストファミリーは、私を「お客さん」ではなく、一人の家族として迎え入れてくれました。食事の内容や休日の過ごし方、日常のささいな出来事についても、私の意見を自然に聞いてくれました。その中で、自分の考えを言葉にして伝えることや、相手の意見を尊重しながら話し合うことの大切さを学びました。文化や言語の違いがあるからこそ、相手に伝えようとする姿勢がより重要になることを実感しました。特に、普段からスピーキングをしていないと簡単な英会話でもつまづくことが多いため、とてももどかしかったです。



留学生活では、思い通りにいかないことや戸惑う場面も多くありました。しかし、そのような経験を通して、自分で考え、行動し、乗り越える力が身についたと感じています。一番困ったことはバスの乗り換えです。毎日、ほとんど同じスケジュールですが、時々バス停や止まる時間が異なるため、その時はとても不安でした。私はスマホで確認しましたが、運転手の方に聞いた方がスムーズに移動できたと後悔しています。日本では言葉が通じない人がいたとしても、スマホを使ったり、会話を他人に任せてしまいましたが、留学先では私が外国人だったため自分からアクションを起こすことがとても大変でした。



これらの経験から、留学は語学を学ぶためだけのものではなく、人として成長するための重要な機会であると考えようになりました。実際に海外で生活し、人と関わり、社会の違いを体感することで得られる学びは、教科書や映像だけでは決して得られないものだと思います。例えば、保育園では緊急連絡先が宗教ごとに異なっていたり、出身国の子どもたちのイベントを定期的に行なったりしているなど日本では見られないような環境がありました。特に、これからの社会では、多様な価値観を理解し、異なる背景を持つ人々と協力する力が求められます。その力を育てる上で、今回の留学での体験はとても良いものだったと思います。



だからこそ、私は同年代の学生に留学に挑戦してほしいと考えています。留学は不安も伴いますが、その先には自分の世界を広げる大きな学びがあります。私自身、この留学体験を通して得た視点や問題意識を、今後の学びや進路に生かしていきたいと考えています。そして、留学によって得られる学びの価値が、更により多くの人に伝わり、留学に挑戦する人が増えていくことを願っています。

